

第30回日本受精着床学会

2012.08.30-31 大阪

両側卵管閉塞と診断された患者の心理と治療法の選択

IVF 大阪クリニック¹ IVF なんばクリニック²

○森分 純子¹ 澤辺 麻衣子¹ 小松原 千暁¹ 井田 守¹ 福田 愛作¹ 森本 義晴²

【目的】子宮卵管造影検査(HSG)は不妊治療で最初に実施される検査の一つである。初めて HSG を受ける患者にとっては検査自体に対する怖さやその結果に不安が伴う。

卵管通過障害は女性不妊原因の約 30%といわれている。両側卵管閉塞に対して一般的に生殖補助医療(ART)が治療として選択されるが、当院では第一選択に卵管鏡下卵管形成術(FT)を実施している。そこで HSG 後の患者心理と納得した治療選択が行えているかどうかのアンケート調査をおこなった。

【対象と方法】HSG で両側卵管閉塞と診断された患者 31 名を対象に、2009 年 3 月～2011 年 10 月にアンケート調査を行い、協力を得られた 23 名の集計を行った。今回、過去に HSG を行った患者は除外した。調査の主旨や匿名性の確保について説明し、倫理的配慮を行った。

【結果】両側卵管閉塞と診断された時の気持ちは、「突然でショックだった」が 47%、「原因がわかってよかった」が 17%、「早く受診すればよかった」が 8%だった。また、91%が「診断結果を受け止めることができた」と回答した。今後の治療法の説明を受けて、「FT をしたい」が 34%、「どうしていいかわからず不安」が 17%、「治療すれば妊娠の可能性はある」が 17%だった。今後の治療について、「FT を希望する」が 56%、「FT 後 ART も考えている」が 13%であった。

【考察】今回 HSG 後、FT を選択する患者が多かった。その理由として身体的、経済的な負担が大きい ART に比べて、FT 後は自然妊娠が期待できる点や、保険が適用される事から経済的負担の軽減が考えられる。年齢・卵巣・男性因子により、ART 選択が必要な場合もあるが、FT を選択することで患者の意思も尊重した治療ができると考える。両側卵管閉塞患者に対しては、FT と ART を比較した情報提供を行い、患者の納得した治療法を選択できるよう支援する必要があると考えられた。